

和文化教育

第十四回

全国大会

兵庫県篠山大会

要録

日本遺産のまち丹波篠山

伝統・文化を受け継ぎ、

未来へつなぐ子どもたち

開催日 平成二十九年十月二十九日(日)

場所 篠山市立篠山市民センター

兵庫県篠山市黒岡一九一ー一

開 会 行 事	《10:00 ~ 10:15》	2 F 多目的ホール
ウェルカムアトラクション	《10:20 ~ 10:45》	2 F 多目的ホール 和太鼓演奏 丹波篠山太鼓「鼓篠組」 デカンショ踊り 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校「デカンショバンド」 篠山市立篠山中学校
対 談	《10:45 ~ 11:45》	2 F 多目的ホール 日本遺産の篠山市 ~和文化を育み伝える「場」~ 丹波古陶館館長・篠山能楽資料館館長 中西 薫氏 文化プロデューサー 河内 厚郎氏
理 事 会	《11:45 ~ 12:15》	2 F 研修室5
総 会	《12:15 ~ 12:45》	2 F 催事場
研 究 発 表 会	《12:45 ~ 14:15》	第1分科会 (1 F 研修室1) 第2分科会 (1 F 研修室2) 第3分科会 (1 F 多目的ルーム2・3)
シ ン ポ ジ ウ ム	《14:20 ~ 15:50》	2 F 多目的ホール 文化遺産の教材化の意義と授業実践 パネラー 篠山市立歴史美術館 大西 由喜氏 パネラー 兵庫県教育委員会義務教育課 秋田 大輔氏 パネラー 國學院大學人間開発学部 安野 功氏 コメンテーター プール学院大学学監 梶田 叡一氏 司 会 プール学院大学教育学部 中村 哲氏 司 会 大阪体育大学教育学部 岡崎 均氏
閉 会 行 事	《15:50 ~ 16:00》	2 F 多目的ホール

主催 和文化教育学会 和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会実行委員会

後援 文部科学省 兵庫県教育委員会 篠山市教育委員会 日本教育新聞社

【和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会事務局】

〒669-2397 兵庫県篠山市北新町41 篠山市教育委員会事務局 学校教育課

TEL: 079-552-5653 FAX: 079-552-8015 E-mail: gakkokyoiku_div@city.sasayama.hyogo.jp

《目 次》

1. 大会要項		. . . 2
2. 会場案内図		. . . 4
3. 対談の趣旨・対談者紹介		. . . 6
	丹波古陶館館長・篠山能楽資料館館長	中西 薫
	文化プロデューサー	河内 厚郎
4. 研究発表の要旨		
	第1分科会 1F 研修室1	
	① 郷土愛を育てるふるさと検定	
	～「津島の達人ジュニア検定・選手権」7年の実践を通して～	
	津島市立南小学校	浅井 厚視 . . . 8
	② 伝統文化の視点からのカリキュラム作り	
	～地域教材を核とした関連と系統～	
	丹波市立上久下小学校	野田 はつみ . . . 8
	③ 地域創生、伝統文化の継承の役割として	
	～洲本民謡「あまあや」復興会洲本高校連の取組～	
	兵庫県立洲本高等学校	越田 佳孝 . . . 9
	④ 歴史教育における文化遺産の活用	
	～丹波八上城・篠山城の歴史的価値～	
	関西学院大学文学部	中村 直人 . . . 9
	第2分科会 1F 研修室2	
	① 『視覚から古典の扉を開く』	
	～学びの現場における双六の可能性	
	双六読書会小さな靴あと	谷 明子 . . . 10
	② 知ろう！食べよう！伝えよう！大山 育てよう！心と体	
	～地域の素材を生かした地産地消の食育の探究～	
	篠山市立大山小学校	佐藤 慧 . . . 10
	③ 視覚・聴覚に訴える教材化による百人一首に親しむ文化を広げること	
	プール学院大学教育学部	湯峯 裕 . . . 11
	④ グローバル文化として発展するKENDAMA教材の開発	
	関西学院大学教育学部	峯岸 由治 . . . 11
	第3分科会 1F 多目的ルーム2・3	
	① 誇りに思う ふるさと今田 ～今田小学校の取組～	
	篠山市立今田小学校	高森 俊広 . . . 12
	② 雑誌「きりん」の詩に見る和文化	
	プール学院大学教育学部	今宮 信吾 . . . 12
	③ 昔遊びと子どもの育ち	
	南九州大学教育学部	野村 宗嗣 . . . 13
	④ 和文化教育としての絵本とその読み聞かせ	
	鳴門教育大学	余郷 裕次 . . . 13
5. シンポジウムの趣旨		. . . 14
	シンポジスト提案要旨	
	○ 篠山歴史文化「お城こどもガイド」	
	篠山市立歴史美術館	大西 由喜 . . . 15
	○ 兵庫県における地域に伝わる伝統文化に関する学習の充実	
	兵庫県教育委員会義務教育課	秋田 大輔 . . . 16
	○ 社会科における文化遺産の教材活用の意義と実践上の課題	
	～学習指導要領の改訂を踏まえて～	
	國學院大學人間開発学部	安野 功 . . . 17
6. 資料		. . . 18

平成29年度 和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会要項



この大会の趣旨は、日本遺産 W（丹波篠山デカンショ節、きっと恋する六古窯）認定のまち篠山市の地域に根ざした伝統文化教育の実践を発信するとともに、全国各地の伝統文化教育の実践を交流し、日本の伝統文化教育の振興・発展に寄与することにあります。



日本遺産のまち丹波篠山 伝統・文化を受け継ぎ、未来へつなぐ子どもたち

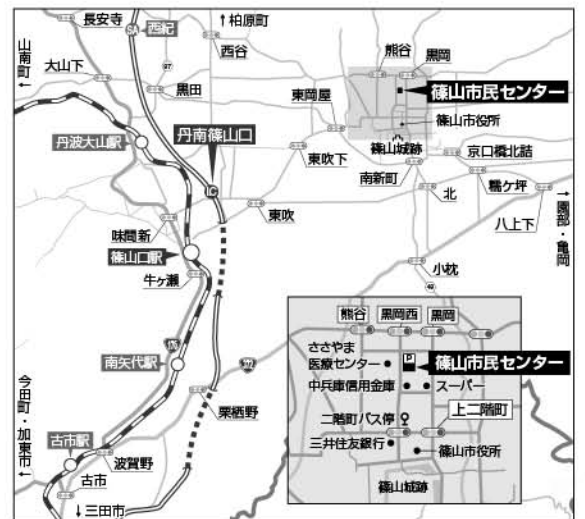


主催 和文化教育学会 和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会実行委員会
後援 文部科学省 兵庫県教育委員会 篠山市教育委員会 日本教育新聞社



篠山市立篠山市民センター
〒669-2321 兵庫県篠山市黒岡 191-1
TEL：079-554-2188

- 駅からのアクセス
JR 福知山線「篠山口駅」より神姫グリーンバスで「二階町」バス停下車、徒歩で北へ約5分
- お車をご利用の方
舞鶴若狭自動車道「丹南篠山口インター」より約15分
駐車場（建物の北側）：普通自動車160台、大型バス3台



平成29年10月29日（日）

9:30	10:00 ↓ 10:15	10:20 ↓ 10:45	10:45 ↓ 11:45	11:45 ↓ 12:45	12:45 ↓ 14:15	14:20 ↓ 15:50	15:50 ↓ 16:00	16:30 ↓ 18:00
受付	開会行事	ウエルカムアトラクション ◇和太鼓演奏 ◇丹波篠山太鼓「鼓篠組」 ◇デカンショ踊り 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 「デカンショバンド」 篠山市立篠山中学校	対談 日本遺産の篠山市 「和文を育み伝える「場」」	昼食 和文化教育学会理事会・総会	研究発表会	シンポジウム 文化遺産の教材化の意義と授業実践	閉会行事	和文化教育学会等懇親会 （特産館ささやま）





1. 対談 《10:45～11:45 / 2F 多目的ホール》

テーマ 日本遺産の篠山市 ～和文化を育み伝える「場」～

丹波古陶館館長・篠山能楽資料館館長 中西 薫
文化プロデューサー 河内 厚郎

2. 研究発表会 《12:45～14:15》

第1分科会（会場：1F 研修室1）

- 《司会》西裏 慎司（大阪大学人間科学研究科） 平田 恭輔（丹波市立上久下小学校）
- ①郷土愛を育てるふるさと検定 —「津島の達人ジュニア検定・選手権」7年の実践を通して—
《発表者》浅井 厚視（津島市立南小学校）
 - ②伝統文化の視点からのカリキュラム作り ～地域教材を核とした関連と系統～
《発表者》野田はつみ（丹波市立上久下小学校）
 - ③地域創生、伝統文化の継承の主役として ～洲本民謡「あまあや」復興会洲本高校連の取組～
《発表者》越田 佳孝（兵庫県立洲本高等学校）
 - ④歴史教育における文化遺産の活用 —丹波八上城・篠山城の歴史的価値—
《発表者》中村 直人（関西学院大学文学部）

第2分科会（会場：1F 研修室2）

- 《司会》五百住 満（関西学院大学教育学部） 森田 恭弘（篠山市立篠山中学校）
- ①「視覚から古典の扉を開く」—学びの現場における双六の可能性—
《発表者》谷 明子（双六読書会小さな靴あと）
 - ②知ろう！食べよう！伝えよう！大山 育てよう！心と体 ～地域の素材を生かした地産地消の食育の探究～
《発表者》佐藤 慧（篠山市立大山小学校）
 - ③視覚・聴覚に訴える教材化による百人一首に親しむ文化を広げること
《発表者》湯峯 裕（プール学院大学教育学部）
 - ④グローバル文化として発展するKENDAMA教材の開発
《発表者》峯岸 由治（関西学院大学教育学部）

第3分科会（会場：1F 多目的ルーム2・3）

- 《司会》馬野 範雄（関西福祉科学大学教育学部） 塚本 一男（篠山市立西紀小学校）
- ①誇りに思う ふるさと今田 ～今田小学校の取組～
《発表者》高森 俊広（篠山市立今田小学校）
 - ②雑誌「きりん」の詩に見る和文化
《発表者》今宮 信吾（プール学院大学教育学部）
 - ③昔遊びと子どもの育ち
《発表者》野村 宗嗣（南九州大学教育学部）
 - ④和文化教育としての絵本とその読み聞かせ
《発表者》余郷 裕次（鳴門教育大学）

3. シンポジウム 《14:20～15:50 / 2F 多目的ホール》

テーマ 文化遺産の教材化の意義と授業実践

- 《司会》中村 哲（プール学院大学教育学部） 岡崎 均（大阪体育大学教育学部）
- 篠山歴史文化「お城こどもガイド」
《パネラー》大西 由喜（篠山市立歴史美術館）
- 兵庫県における地域に伝わる伝統文化に関する学習の充実
《パネラー》秋田 大輔（兵庫県教育委員会義務教育課）
- 社会科における文化遺産の教材活用の意義と実践上の課題 ～学習指導要領の改訂を踏まえて～
《パネラー》安野 功（國學院大学人間開発学部）
- 《コメンテーター》梶田 叡一（プール学院大学学監）

平成29年度 和文化教育第14回 全国大会兵庫県篠山大会 会場案内図



対 談

テーマ 日本遺産の篠山市 ～ 和文化を育み伝える「場」～

丹波古陶館館長・篠山能楽資料館館長 中西 薫
文化プロデューサー 河内厚郎

四方をなだらかな山に囲まれた盆地の中に篠山市の中心部は位置する。秋から冬にかけては盆地特有の濃い霧の発生する日が多く、盃ヶ岳など低い山からでも眺められる雲海は「丹波霧」とも呼ばれて、「幽玄」の趣を漂わせる。

篠山盆地を中心とする多紀郡は近世に篠山藩の支配を受けた。篠山藩の城下町として多紀郡の中心として発展した篠山は、自然災害も少なく、和風の景観が保たれてきた。鉄道の駅から遠いのが難だが、鉄道路線から離れていたが故に古雅な町並が残ったとも言える。旧城下の武家屋敷群や奥行きの深い商家群が落ち着いた町並を形成し、近年は外国人の姿もふえつつある。大阪を本拠にして活動し西宮とミラノに家をもつ、世界的な工業デザイナー・喜多俊之氏が、古民家をリノベーションした「篠山ギャラリーKITA'S」を7年前にオープンさせたように、近畿・京阪神の奥座敷となれる要素を備えている。

平成9年（1997）、全国に向けて、篠山から質の高い芸術・文化の情報を発信しようと、各専門分野で著名な識者たちの寄稿を仰ぎ、芸術文化雑誌『紫明』が創刊された。この雑誌へ寄せられた「継続的な発刊のパワー維持の基盤を確立するべし」との期待に応え、併せて「丹波古陶館」「篠山能楽資料館」への理解を深めてもらえるよう、創刊号発刊と時を同じくして両館友の会「紫明の会」が創立された。全国の芸術愛好家の幅広い賛同が得られ、現在では多くの会員を擁する組織に発展。『紫明』誌も号を重ねて、質の高いユニークな雑誌と評されている。

妻入りの商家群が近世そのままに立ち並ぶ河原町の一角にある丹波古陶館は、昭和44年（1969）に設立された。展示室は、かつて生糸蔵・米蔵として使われた古建築で、丹波焼の創成期から江戸時代末期に造られた代表的な品々を分類展示し、館蔵コレクション312点は兵庫県文化財に指定されている。

中世の丹波猿楽と近世の城下町文化が育んだ風土の中、春日神社の能舞台で行われる春秋の公演は、通常の能楽堂では味わえない趣があり、観光客にも好評だ。昭和51（1976）に設立された篠山能楽資料館は、能楽・装束・楽器など能に関する資料の収集と研究を行い、能楽専門の資料館として日本における伝統芸能の一拠点となっている。

このようなことから考えても、篠山は和文化教育を発信するにふさわしい地域であると言えよう。

このほど、篠山チルドレンズミュージアムの一部を改修し、同市出身の心理学者で文化庁長官をつとめた故河合隼雄ゆかりの「河合隼雄の子ども部屋」がオープンした。同ミュージアムは、旧多紀中学校の木造校舎を活用した施設で、開館当初の2001～07年に名誉館長をつとめた河合隼雄は、日本人として初めてユング研究所にてユング派分析家の資格を取得し、箱庭療法を日本へ初めて導入。臨床心理学・分析心理学の立場から日本臨床心理士資格認定協会を設立した。篠山在住の霊長類学者、河合雅雄は兄。

なか にし かおる
中西 薫 略 歴

昭和 34 年(1959) 7 月 9 日
昭和 53 年(1978) 3 月
昭和 53 年(1978) 4 月

昭和 58 年(1983) 3 月

昭和 58 年(1983) 4 月
昭和 60 年(1985) 4 月
平成 9 年(1997) 7 月
平成 15 年(2003) 9 月
平成 21 年(2009) 5 月
平成 21 年(2009) 9 月

役 職

丹波古陶館館長／篠山能楽資料館館長

兵庫県多紀郡篠山町（現篠山市）に生まれる
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校卒業
成城大学文芸学部入学
同大学文化史学科西山松之助教授（東京教育大学名誉教授）に師事 専攻は日本近世文化史・陶磁史
同大学卒業 「博物館学芸員資格」取得
卒業論文「文人陶芸の研究」
(財)白鶴美術館に嘱託研究員として勤務（昭和 60 年 3 月まで）
丹波古陶館に学芸員として勤務
藝術文化雑誌『紫明』創刊（編集責任者）
丹波古陶館、篠山能楽資料館館長に就任（現在に至る）
丹波篠山観光協会会長に就任（平成 27 年 5 月退任）
『丹波の名陶』（求龍堂刊）編著

兵庫県博物館協会副会長
篠山能実行委員長
丹波篠山・まちなみアートフェスティバル実行委員長

かわ うち あつ ろう
河内 厚 郎 略 歴

昭和 27 年(1952)10 月 28 日
昭和 46 年(1971) 3 月
昭和 47 年(1972) 4 月
昭和 52 年(1977) 4 月

昭和 62 年(1987) 3 月
平成 9 年(1997) 4 月

平成 13 年(2001) 4 月

平成 24 年(2012) 4 月

役 職

文化プロデューサー

兵庫県西宮市に生まれる
甲陽学院高等学校卒業
一橋大学法学部入学 専攻は西洋法制史
舞台芸術学院ミュージカル部（夜間）に入学
文芸・演劇評論家として執筆業に入る
月刊誌「関西文学」の編集長に就任
(財)兵庫現代芸術劇場（現・兵庫県立芸術文化センター）の特別
参与に就任
夙川学院短期大学特任教授に就任
「はびきの市民大学」学長に就任
河内厚郎事務所が芦屋市民センター・公民館・ルナホールの事業を
受託

宝塚市大使 宝塚映画祭実行委員長
「関西・歌舞伎を愛する会」代表世話人
人形浄瑠璃街道連絡協議会アドバイザー
日本センチュリー交響楽団評議員
阪急文化財団理事
文化庁芸術祭賞・審査員
三田市総合文化センター「郷の音ホール」事業企画アドバイザー

〈 和文化教育学会 記念対談の流れ 〉

テーマ「日本遺産の篠山市～和文化を育み伝える「場」～」

はじめにー いま、篠山という地域に生きること

1. 前川澄夫著『デカンショ節考』（昭和 56 年、丹波古陶館発刊）で表現されたもの
2. 日本六古窯の一つ「丹波焼」が伝えた生活の美
3. 町並保存運動と「まちなみアートフェスティバル」の誕生
4. 「篠山春日能」の継承と「篠山子ども狂言」
5. 「町屋の芸術学校」での文化発信と地元県立高校に芸術文化コースの開設を

おわりにー 「和文化」を育む場

伝統を受け継ぐということは、そのままの姿を伝えるのではなく、現代人がより高度なものに磨き上げ育てること、より内容あるものに手をかけて仕上げていくことである。

研究発表会

第1分科会（会場：1階 研修室1）

《司会》西裏 慎司（大阪大学人間科学研究科）

平田 恭輔（丹波市立上久下小学校）

1. 郷土愛を育てるふるさと検定 —『津島の達人ジュニア検定・選手権』—

津島市立南小学校 浅井 厚視

愛知県津島市では平成22年度から、郷土愛を育むため、ご当地検定のジュニア版を作成し、市内の小学校6年生全員（600人程度）が受検している。この検定のため、公式テキストを執筆・編集・改訂してきた。テキストは、児童のための津島の通史で、弥生・古墳の遺跡に始まり、南朝伝説、信長・秀吉・家康との関わり、尾張津島天王祭（ユネスコ無形文化遺産に登録）と津島牛頭天王社の繁栄、毛織物産業の発展、15年戦争と戦争遺跡、人物、学校の歴史、太鼓・雪駄づくり、名物、方言、祭りなどを内容としている。

平成23年度から、地域の商工会議所とケーブルテレビの協力を得て、検定で学びさらに学習したい児童のために『津島の達人ジュニア選手権』という歴史クイズ（ふるさと検定）番組を作成している。番組の制作も6年を経て、毎年120人を超える児童が自主的に参加している。

このジュニア検定と選手権のため、希望する小学校で出前授業を実施している。出土した遺物、絵地図や当時のイラストにあたる図会などを持参し、できるだけ実物を教材とした実感の伴う授業を目指している。また検定・選手権の時期に合わせて、ケーブルテレビが「直前講座」を放映し、夕方にテレビで家庭学習ができるようにしている。平成26年度からは、市教育委員会が若手教師を対象とした研修会「地域学習研修会」を実施し、ジュニア検定の普及も進めている。津島のまちを「知る」ことで、まちが「好き」になり、「まちづくり」（祭りや地域のイベント）に参加する児童が増加している。

2. 伝統文化の視点からのカリキュラム作り ～地域教材を核とした関連と系統～

丹波市立上久下小学校 野田 はつみ

本校は、兵庫県の中央に位置し、自然豊かな地域である。約10年前には、校区内の篠山断層から恐竜の化石が発見され、「丹波竜の里」として活気づいた。恐竜のみならず、地域には多くの地域教材となるものがあり、20年以上前から教育課程に地域教材を取り入れた学習を行っている。地域の方にゲストティーチャーとして協力していただく中で、『本物』に出会い、ふるさとの良さを知り、大切にしようとする心情を育んできた。

昨年度からは兵庫県教育員会の指定を受け、「伝統文化の学び充実事業モデル校」として、地域の伝統文化を核として、教育課程を「伝統文化」という視点から整理し、全校で取り組んできた。初年度は、「伝統文化」の内容の洗い出し、「伝統文化の学び」を本校でどのように位置づけるのか、全校で取り組むためのカリキュラムとはどのようなものかなど、枠組みづくりと地域の伝統文化に関わる教材について職員研修を行った。全体計画、各学年における「伝統文化の学びのカリキュラム」を作成し、授業研究を重ねた。今年度は、作成したカリキュラムの中で、1年間の学びを効果的に行えるよう関連させる「横のつながり」と、地域の伝統文化に関わる教材を系統的に学習できる「縦のつながり」も考え、再構成した。同時に、地域の伝統文化の学習を、継続して地域の方から学べるよう単元展開も工夫し、実践を行っている。

地域の伝統文化を、地域の人材から学ぶことで、主体的に学び、ふるさとに愛着と誇りをもち、発信できる児童を目指して取り組んでいる。

3. 地域創生、伝統文化の継承の役割として ～洲本民踊「あまあや」復興会 洲本高校連の取組～

兵庫県立洲本高等学校 越田 佳孝

兵庫県では、県立高等学校の重要な役割の一つに「地域の元気づくり」がある。「地域の元気づくり」とは、平成28年6月に兵庫県が立ち上げた「兵庫県地域創生戦略会議」で、兵庫県が取り組む今後の「地域創生」施策の一つである。県立洲本高等学校がある淡路島では、少子化高齢化が急速に進み、人口が急減している。そこで、高校生が様々な形で、地域に出て、活躍することは、「地域の元気づくり」につながる。「地域の元気づくり」は、その一方で、高校生が、自らが生まれ、育った地域の「伝統芸能」等の文化遺産に触れ、それを継承していくという役割を担うことによって、自らが生まれ育った「ふるさと」に対する「誇り」を育てることにもつながる。

洲本民踊「あまあや」の「おまあや」とは、元々「お前さん」「お前さんや」というように、親しい者に呼びかける際に使われる話し言葉である。この言葉を歌詞の出だしとした「俗曲」に、振り付けがつけられたものが洲本民踊「おまあや」である。団扇を叩く、独特の所作が特徴的なこの踊りは、江戸時代の後半頃から明治にかけて、洲本の人々に親しまれてきた。現在では、洲本市の文化団体「おまあや復興会」が継承活動に取り組んでいる。洲本市でも、ほぼ廃れてしまった「おまあや」を、現在、県立洲本高等学校の生徒会、ミュージックダンス部などが中心となって、洲本民踊「あまあや」復興会の高齢者から指導を受け、それを復興し、毎年8月の「淡路島まつり」には「洲本高校連」を結成して参加することで、洲本の伝統民舞の存在を周知し、その継承につとめている。現在、地方では、少子高齢化にともなう人口減が急速に進む中、このような活動を通して、伝統継承の一端を担うと共に、「ふるさと」の歴史へ造詣と親しみを深めていくことが大切である。

4. 歴史教育における文化遺産の活用 ー丹波八上城・篠山城の歴史的価値ー

関西学院大学文学部 中村 直人

篠山城跡や古い町並み、デカンショ節などで知られる丹波篠山は、篠山城を中心に形成された城下町である。篠山城は、江戸時代初頭に幕府の命により普請された近世城郭である。同心円状の特色ある縄張りや立派な石垣などがよく残り、現在は国史跡に指定されている。また、篠山城から望むことができる高城山には、かつて当地域を支配した丹波国最有力の領主（大名）である波多野氏の居城・八上城跡がある。八上城は、織田信長に反旗を翻した波多野秀治が籠城し、明智光秀による凄惨な包囲戦が展開されたことで著名な戦国期の城郭である。八上城跡もまた国史跡に指定されている。篠山市には、国指定史跡として歴史的・学術的価値が認定された城郭が、二ヶ所も存在する。

城郭・城下町は、日本の文化遺産を構成する重要な要素の一つであり、歴史教育においても必ず扱われる存在である。その中で篠山城と八上城は、それぞれが成立・機能した時代における城郭の特色をよく示し、かつ、地域支配の拠点としての連続性をもつなど、中近世の城郭・城下町について理解する上で恰好の素材となる。本報告では、江戸時代の篠山城と共に、篠山城の前提となる戦国時代の八上城をとりあげ、それぞれがもつ特質や相互関係などについて、歴史的背景に留意して検討する。そして、両城のもつ歴史的価値（意義）や、地域史を含む歴史教育における生かし方について考えてみたい。

第2分科会（会場：1階 研修室2）

《司会》五百住 満（関西学院大学教育学部）

森田 恭弘（篠山市立篠山中学校）

1. 『視覚から古典の扉を開く』—学びの現場における双六の可能性—

双六読書会小さな靴あと 谷 明子

河出書房新社から発刊中の日本文学全集を読む読書会です。当会の紹介をすれば「何だか難しそうですね。古典も多いし」と言われます。「人気作家の現代語訳ですから分かりやすいですよ」と説明しても「古典は苦手だから」と尻込みされます。「古典を読む」前に「古典は難解」というイメージ先行の重い扉が立ちはだかっていました。

まず「古典は楽しい」と思ってもらわねばなりません。模索の末、辿り着いたのが双六でした。双六は「遊びながら学ぶ」ことを目的に考案された歴史があります。江戸時代には文化娯楽の発展と共に、様々な美しい双六が登場し、今に伝わっています。

双六の特性の一つ「遊びながら学ぶ」と色鮮やかな江戸時代のデザインを参考しながら井原西鶴著『好色一代男』の双六制作を始めました。主人公世之介の7歳から60歳までの人生54章をA1サイズの紙に描き出しました。女性に誤解されがちな古典『好色一代男』ですが、「世之介双六」のおかげで、現代とはニュアンスの違う「好色」の概念も上手く伝わりました。遊び終えた後、「ちゃんと読んでみようかしら」という感想が参加者から出た瞬間、扉が少し開いた気がしました。以来「遊びながら学ぶ」を念頭に置き、改良を重ねつつ古典作品などの双六を作成しています。

素人の読書会ですから、古典を語ることは荷が重すぎますが、視覚から古典へ誘うこと、入口作りになればと活動を続けています。篠山大会の記念としまして「丹波篠山の歴史双六」を作成いたしました。レジメ代わりに配らせていただく予定です。

2. 知ろう！食べよう！伝えよう！大山 育てよう！心と体

～地域の素材を生かした地産地消の食育の探究～

篠山市立大山小学校 佐藤 慧

古くは京都東寺の荘園があった地、大山。大山城跡や多くの古墳群跡が見られる地において、『人形狂言』や『焼杉』等の伝統芸能、伝統工芸が継承され、希少動植物等が残る教育素材が非常に豊富な地域の中にある大山小学校。地域とともにある学校として、『永遠に栄えを 山よ緑よ ふるさとよ』の精神のもと、古くから受け継がれてきた大山の歴史と伝統を子どもたちが継承し、ふるさと大山の良さを知り、誇りを持ち、未来に伝えていく教育活動を展開しています。中でも大山の地で古くから伝承されてきている豊富な食素材にスポットを当て、【未来へのお届け物】として『大山のスイカ』や『天内芋』、『とふめし』等の食の特産物についての学習を深める中で、新しい時代、これからの社会を生きる力の育成をめざした教育活動の展開に力を入れています。『スイカシャーベットの販売』や『デカンショ祭りへの参画』、『天内芋を使ったレシピの考案』『天内芋スイーツの販売』といった第6次産業への参画を試み、豊富な地域教材の活用と豊かな人材との連携を図りながら大山っ子の《学びの地図》をデザインすることで、子どもたちがふるさとや自分自身に誇りを持ち、自信を持って学び続けていく姿の育成を目指しています。

3. 視覚・聴覚に訴える教材化による百人一首に親しむ文化を広げること

プール学院大学教育学部 湯峯 裕

藤原定家による「小倉百人一首」は、広く親しまれているようではあるが、「かるた」としてその名のみが知られて、内容の理解にまでには至っていないことが多い。また、高等学校等で、古典の授業の一環として内容理解に取り組みられていても、授業の初めの小テストとして、自学自習の確認程度で扱われていることが多い。時代を代表する歌人の定家が選りすぐった百首であり、その中身は非常に味わい深いものである。それを、文学作品として親しむ機会を大事にしたいという思いから、これからの時代に合った楽しみ方を考えるべく今回の企画を始めた。

「かるた」としての百人一首では、以下の点において、文学鑑賞とは遠い世界になっている問題点がある。すなわち、①3句切れではない歌も含めて、すべて上の句・下の句として第3句で切り分けられている。②歌の読み方もその形に合わせており、歌の内容とは無関係になっている。③取り札は、文字だけの形式的なものになっている。④1字決まり、2字決まりなど、歌ではなく文字の連続としてとらえることが多い。⑤競技として、歌の世界を味わう余裕がない。

これらの点を克服して、かつ子どもたちでも楽しみながら日本の伝統文化に触れられるような、新しい百人一首の楽しみ方を開発し、可能ならば、それを海外にも発信できるようにまでにする。さまざまな職種の者が集まっている。狂言師、ITコーディネーター、カラースタイリスト、印刷業、漫画家、ファイナンシャル・プランナーなど。教育関係者は一人である。今のところは、多彩な視点から、誰をターゲットにどんな味わい方があるか、議論を重ねている段階であるが、歌を歌として味わって、日本の伝統文化としての和歌の世界を大切にするものにする。

4. グローバル文化として発展する KENDAMA 教材の開発

関西学院大学教育学部 峯岸 由治

けん玉は、日本で誕生した玩具である。1918年、広島県呉市の江草濱次氏が、鼓をヒントにして、フランスのビルボケの両側に皿をつけることを考案したのである。けん玉は、十字状の「けん（剣）」と穴の空いた「玉」で構成される玩具である。ワイングラスと糸玉、動物の角と木製の玉など、2つのものを糸、またはひもで結び、引き上げたり振ったりして、もう一方に乗せる、はめるという玩具は、昔から世界中にあった。

例えば日本のアイヌ民族のウコ・カリ・カチュ、アメリカ五大湖周辺のインディアンに伝わっているジャグジェラ、エスキモーに伝わるアジャクウァクなどである。その中でフランスのビルボケ (bilboquet) は、16世紀頃から子どものみならず貴族や上流階級の人々にも広く浸透し、国王も愛好したという記録も残っている。その後、けん玉は、1907年、1924年、1933年と大流行する。さらに、1977年は「けん玉ルネッサンス」といわれる爆発的な大流行となった。この大流行は、皿胴に糸を出す穴を開けるなど合理的な設計がされた競技用けん玉が普及したことが影響している。

その後しばらく低迷期が続くが、2010年頃、米国の若者が日本から持ち帰ったけん玉をヒップホップ系の音楽に合わせて様々な技を披露する様子を動画サイトに投稿、これがきっかけで KENDAMA が新たなストリートパフォーマンスとして認知されるようになり、海外で急速に広がった。そのため、2014年には、第1回けん玉ワールドカップが開催された。2017年の「けん玉ワールドカップ」には、世界14の国・地域から387人のプレイヤーが集まり、二日間で延べ約5万3千人が詰め掛けている。

本発表では、こうしたグローバル文化として発展するけん玉を和文化教育教材として開発したものを紹介する。

第3分科会 (会場:1階 多目的ルーム2・3)

《司会》馬野 範雄(関西福祉科学大学教育学部) 塚本 一男(篠山市立西紀小学校)

1. 誇りに思う ふるさと今田～今田小学校の取り組み～

篠山市立今田小学校 高森 俊広

(1) はじめに

今田小学校は篠山市の南西部に位置し、自然豊かな環境のもとで全校生155名が学んでいる。周囲にはサギソウをはじめ希少な生物が生息するとともに、六古窯のひとつである丹波焼きのお膝元でもある。本校のふるさと教育について紹介したい。

(2) サギソウ栽培活動

今田小学校ではサギソウを「学校のヒーロー」として位置づけ、全校生で栽培活動を行っている。4月に「サギソウ集会」を行い、その後は全校生が自分の花に責任を持って栽培し、市内公共施設でも展示を行っている。

(3) 作陶活動

今田小学校には学校にあるのが全国的にも珍しい登り窯「あけぼの窯」がある。平成13年に完成し、以後毎年全校生が作陶活動を行い、あけぼの窯で作品を仕上げる。窯元として活躍されている保護者の協力がある活動である。

(4) その他のふるさと教育

他にも教科や総合的な学習で、黒豆栽培、今田小唄とデカンショ踊り、カスミサンショウウオ飼育、篠山市内巡りなど地域の自然や文化に関わる学習をしている。

(5) 終わりに

学校運営協議会も「ふるさと講演会」を実施するなど、ふるさと今田に誇りを持つ取組を行っており、今後も地域との連携を強めてふるさと教育を進めていきたい。

2. 雑誌『きりん』の詩に見る和文化

プール学院大学教育学部 今宮 信吾

雑誌「きりん」は、昭和23年に大阪で発刊された児童雑誌である。作家の井上靖が関西在住の竹中郁、坂本遼という詩人に声をかけ、その知り合いの作家や画家が子どもたちの健全育成のために、現場の教師にも声をかけて編集された雑誌である。日本で一番美しい本を目指すという志の背景には、「赤い鳥」への憧れもあった。戦争で何もかも失った日本において、ことばを話したり、読んだり、書いたりすることの大切さを訴え、他の雑誌と共に多くの児童作文を生み出した。

作品の特徴は、詩人が編者として担当した分、文学的、芸術的である。そして、竹中の試作の影響を受けて、ユーモアや絵画のような情景描写がなされている。本発表では、竹中の詩教育観から見られる文化・芸術的な側面を示す文章と、竹中が選評として書いた文章から、どのように文化的に認めているのかを考える。主には題材を中心に見ていく。

それらの作品の価値づけやそれらを生み出すまでの指導法の解釈について述べ、戦後の文化に児童詩が果たした役割についても考察を加えたい。題材のキーワードとなることは、ユーモア、笑い、生活、である。書きぶりについての評価は、比喩表現を中心に見ていく。

最後に新学習指導要領に書かれている、言語に関する伝統的な言語文化についても触れ、児童詩がどのような役割を果たすべきなのかという点についても論じていく。新しく文言として加わった「言葉による見方・考え方」という点についても、「きりん」の作品を中心にして、目指すべき方向性が見出だしていきたい。和文化という概念の中に、児童詩を盛り込み、今度創作できるような指導方法が展開されることを願う。

3. 昔遊びと子どもの育ち

南九州大学教育学部 野村 宗嗣

路地や空き地などの身近なところでの遊び場の減少や、ゲームや情報機器の普及から近隣に住む子どもたち同士での遊びが減少しているといわれています。

私が子どもであったころは、日々の子ども同士の遊びの中で、人とのやりとりや運動する力を養っていたとも考えます。昭和に子ども時代を過ごした私にとっては、「段ボールすべり」は河川の土手の草がほどよく茂った斜面のすべりやすそうなところを見つけ、段ボールをお尻にひいて、いかに早く土手の下まですべりおることができるかを目的に、スリルとスピードを楽しんだものでした。道具といったら段ボールの端切れだけで、くり返し斜面を登ってはすべっていました。妹と公園での遊びの帰りに、土手にだれかが遊んだ後の段ボールを見つけ、妹と段ボールの二人乗りですべった記憶があります。これが二人だとなかなかすべりにくく、傾斜の急なところを見つけて、「せーのっ！」というかけ声をとともに、上体をふたりとも思い切り後ろに倒してすべっていた様子です。

今回の発表は、昔遊びの一つとして「段ボールすべり」を題材にあげ、実際に幼稚園に通う年少児さん達に「段ボールすべり」をしてもらい、活動を通して子どもたちにどのような力が育まれるのかを考えたいと思います。

4. 和文化教育としての絵本とその読み聞かせ

鳴門教育大学大学院 余郷 裕次

先に、「伝統的言語文化としての絵本の読み聞かせ—江戸期の画主従文「絵本」を中心に—」（『和文化教育研究』第10号 2016年8月31日 pp.12-19）において、江戸期の庶民文化の隆盛の中で、庶民に絵本（版本）が普及し、その読み聞かせも庶民の間に浸透している例を取り上げ考察した。絵本の読み聞かせが、日本の伝統的言語文化と呼べるものであることを明らかにした。現在においても、絵本は、重要な出版文化であり、絵本とその読み聞かせは、重要な言語文化である。

現在の絵本には、昔話や古典といった伝統的言語文化遺産を題材にしたもの、伝統的食品や玩具等をキャラクター化したもの、伝統的言語遊戯を取り入れたものなど、伝統的な文化や言語文化を題材にしたものがある。

今回は、日本の伝統的遊戯である「だるまさんがころんだ」を題材とする絵本『だるまさんが』（かがくいひろし作 2008年 ブロンズ新社）、『だるまさんの』（かがくいひろし作 2008年 ブロンズ新社）、『だるまさんと』（かがくいひろし作 2009年 ブロンズ新社）を取り上げる。絵本において、「だるまさんがころんだ」や「いないいないば」といった伝統的遊戯がどのように取り入れられているかを明らかにするとともに、その読み聞かせによって、日本の伝統的文化価値である「他者と柔らかく関わる」や、「他者と力とともに息を合わせる」といったことが、聞き手（読者）に伝わる絵本モンタージュの仕掛けについて明らかにする。

シンポジウム

テーマ 文化遺産の教材化の意義と授業実践

- | | |
|----------|----------------------|
| ○シンポジスト | 大西 由喜（篠山市歴史美術館） |
| | 秋田 大輔（兵庫県教育委員会義務教育課） |
| | 安野 功（國學院大學人間開発学部） |
| ○コメンテーター | 梶田 叡一（プール学院大学学監） |
| ○司 会 | 中村 哲（プール学院大学教育学部） |
| | 岡崎 均（大阪体育大学教育学部） |

【シンポジウム趣旨】

今年度の和文化教育第14回全国大会は、「日本遺産のまち丹波篠山 伝統・文化を受け継ぎ、未来へつなぐ子どもたち」の大会テーマで兵庫県篠山市にて開催することになりました。篠山市は、兵庫県中東部の篠山盆地に位置し、古来より京都への山陰道の交通の要所として栄え、1609年に築城された篠山城の歴史ある城下町です。現在も篠山城跡、御徒士町武家屋敷群、河原町妻入商家群の伝統的町並みがあり、デカンショ祭、立杭焼、春日神社の春日能、丹波杜氏の酒造などの伝統文化の薫り溢れる地域です。そして、「日本遺産 W（丹波篠山デカンショ節、きつと恋する六古窯）認定のまち篠山市に根ざした伝統文化教育の実践を発信するとともに、全国各地の伝統文化教育の実践と交流し、日本の伝統文化教育の振興・発展に寄与する」ことを大会趣旨としています。

この大会趣旨を踏まえて、本シンポジウムでは学校教育における「文化遺産の教材化の意義と授業実践」のテーマを設け、伝統文化教育の重要な内容である文化遺産を教材化する意義とその教材活用を図る授業実践を検討して、地域に根ざす伝統文化教育の振興・発展の知見を考察することに趣旨があります。伝統文化教育は、地域の教育力と活性化と共に国際社会における重要な役割と交流を推進する日本人としての資質を形成するところに教育的意義があります。最近の学校教育の教育課程においては伝統文化に関する教育内容が重視され、全国の地域や学校において授業実践が多様になされています。このような伝統文化教育の動向を視野にこれからの国際社会と地域社会の形成者としての資質育成を図る文化遺産の教材化と授業実践の指導を考察します。

このようなシンポジウムの趣旨を踏まえてシンポジストとして、篠山市における伝統文化教育に取り組まれている篠山市歴史美術館の大西由喜氏、兵庫県の「伝統文化の学びの充実事業」を推進されている兵庫県教育委員会義務教育課の秋田大輔氏、学習指導要領改訂に関与され全国の教育動向を熟知されている國學院大學の安野功氏に発表をしていただきます。さらに、中央教育審議会委員として日本の学校教育に貢献されてきている和文化教育学会の梶田叡一会長にコメンテーターの協力をいただいています。

本シンポジウムにおいて、篠山市、兵庫県、全国の伝統文化に関する教材の授業実践事例を参考に国際社会と地域社会の形成者育成を図る伝統文化教育の振興・発展の知見を参加者の皆さんと共に考え、共有できますことを期待いたします。

「篠山歴史文化お城子どもガイド」

篠山歴史美術館 大西由喜

(一般社団法人ウイズささやま)

【事業目的】

篠山城内にある篠山市立篠山小学校の6年生の子ども達が、町のシンボルである篠山城の歴史や大書院について学び、伝える。このプログラムから、郷土史学習、企画力、自己表現、コミュニケーション能力、人前で話す力、おもてなし力などを総合的に学習し、篠山の歴史文化を観光客や市民に伝承することで、子ども達の郷土愛と自立心を育む。

【開催概要】

篠山城大書院指定管理者の一般社団法人ウイズささやまと篠山市立篠山小学校、市内のボランティアガイド「ディスカバーささやまグループ」が連携して実施している。29年度で6年目となる。

平成28年度は、6月から学習をスタートした。篠山小学校6年生32名が6班に分かれて篠山の歴史の授業や実地学習を行い、児童オリジナルの篠山城の歴史や大書院の見所を案内するガイド原稿を作成した。この学習に、アドバイザーとして大書院のスタッフやディスカバーささやまグループのメンバーが関わった。

完成したガイド原稿を使用して、大書院のスタッフやディスカバーささやまグループのメンバーに指導を受けながらガイドの練習を重ねた。

本番では、班ごとに3～5人グループを担当し、12月6日、13日に篠山市高齢者大学(22名)、静岡SBSツアーズ(26名)の皆さんに解説ガイドを行った。

【事業効果】

- ・観光客にガイドをする場と機会を提供することで、子ども達に自主性が芽生え、さらに地域の歴史について深く学習することで、郷土愛を育むことが出来た。
- ・子供たちがガイドをすることで、観光客や地域の皆さんに篠山市の文化財を身近に感じてもらうことが出来た。また、篠山市の文化力や教育力を市内外にアピールできた。
- ・観光ボランティアガイドディスカバーささやまグループのメンバーやウイズささやまスタッフ、学校関係者が協力して子供たちに指導することで、ガイドメンバーの知識能力の向上が図れた。さらに、次世代をにう子ども達に地域の歴史・文化を継承していくことが出来た。
- ・本番のうち1回は篠山市高齢者大学の方をお客様として迎えたことで、子ども達からのお城ガイドだけでなく、逆に地域の高齢者からも篠山の歴史について教えていただくなど、新しい学びと地域の高齢者とのよいふれあいの場にもなった。



兵庫県における地域に伝わる伝統文化に関する学習の充実

兵庫県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 秋田 大輔

1 兵庫県における伝統と文化に関する教育の位置付け

【第2期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」】

〔めざすべき人間像〕

○ふるさとを愛し、互いに支え合い協力しながら、明日の兵庫を切り拓き、日本の未来を担う人

○我が国の伝統と文化を基盤として、創造性やチャレンジ精神をもって国際社会に貢献できる人

〔グローバル化に対応した教育の推進〕 伝統と文化に関する教育

ふるさと兵庫を愛する態度を育て、地域の一員としての自覚を高めるため、子どもたちが地域の伝統文化等の体験や、祭りなど地域に根ざした行事等に参加する取組を進めるとともに、学校や文化施設等における優れた舞台芸術の鑑賞や芸術文化活動へ参加できる機会を提供する。

2 主な取組

(1) 伝統文化の学びの充実事業

ふるさと兵庫を愛する心を育み、伝統文化に関する教育の充実を図るため、教育課程に位置付け、地域の文化活動の指導者等と連携し、地域に伝わる伝統文化に関する体験的・実践的な学習の在り方について研究を行う。

① モデル校の指定【2年間（平成28～29年度）】

地域に伝わる伝統文化に関して、教育課程に位置づけた学習を充実するため、県内小中学校のうち12箇所をモデル校として指定

【研究内容】

ア 効果的に実施するための体制整備

・推進体制の整備 ・全体計画及び指導計画の作成

イ 地域人材との効果的な連携

・地域人材との効果的な連携を図るための組織、研究構想

ウ 各教科等における指導方法の工夫・改善

・教科横断的なカリキュラムの開発

・伝統や文化のよさや価値に気付き、尊重する態度を養うことができる指導内容

② 全県伝統文化発表会の開催

伝統文化に関する実践研究の成果を発表する等、効果的な取組の普及・啓発を図る。

【期 日】平成30年1月19日（金）

【場 所】兵庫県立文化体育館

(2) 文化芸術による子供の育成事業◆文化庁所管事業

人形浄瑠璃、能楽等の派遣事業

(3) 子ども伝統文化わくわく体験教室◆企画県民部芸術文化課所管事業

文化団体による体験教室（いけばな、茶道、書道、琴、日本舞踊、能・狂言）

(4) 県民芸術劇場◆企画県民部芸術文化課所管事業

芸術団体等による講演鑑賞、実演指導等（舞踊、能・狂言、人形浄瑠璃等）

「社会科における文化遺産の教材活用の意義と実践上の課題 ～学習指導要領の改訂を踏まえて～」

國學院大學人間開発学部 安野 功

1. 小学校社会科の現行学習指導要領における文化遺産活用の現状

社会科の現行学習指導要領（以下「現行」）では、郷土や我が国の歴史・文化を大切にし、日本人としての自覚をもつことを重視し、次の学習で文化遺産の活用が求められてきた。

■ 3年：身近な地域の文化財や年中行事（祭りなど）を『守り・受け継ぐ』

■ 4年：県の特色あるまちの伝統や文化（歴史ある街並みなど）を『保護・活用する』

■ 6年：我が国の国宝・世界文化遺産（法隆寺など）を『受け継ぎ、次世代につなぐ』

その一方で、県の文化遺産や国宝・世界文化遺産が十分に活用されているとは言い難い実態が見られる。例えば、全国小学校社会科研究協議会全国大会（過去3年間）の実践提案では、学区や市が7事例、県が2事例、国宝・世界文化遺産が3事例である。

2. 新学習指導要領における文化遺産活用の意義

社会科の新学習指導要領（以下「新」）では、「現行において充実された伝統・文化に関する理解を引き続き深める」という改善の方向性が示され、次の学習で文化遺産の更なる活用が求められている。

■ 3年：「市の様子の変り変わり」で、市の文化遺産（建物など）と『出会う・知る』

■ 4年：「県内の伝統や文化」で、県内の主な文化財や年中行事（含む日本遺産や世界遺産）を『知る・わかる』＋『守り・受け継ぐ』

■ 6年：我が国の国宝・世界文化遺産など（「など」には、解説で「日本遺産」を例示。県や市の文化財も含む）を『受け継ぎ、次世代につなぐ』

3. 新学習指導要領における文化遺産活用の実践課題

(1) 「市の様子の変り変わり」（3年）

生活舞台の歴史的背景に目を向ける最初の内容である。子どもの興味・関心や問題意識を昔（明治の初め頃）へと誘うには、どのような文化遺産（教材）との出会いが効果的なのか。例えば、京都市の場合、平安神宮と蹴上の発電所跡と路面電車等。

(2) 「県内の伝統や文化」（4年）

県を代表する伝統や文化、例えば、建造物や遺跡、民俗芸能、祭りとは、具体的に何を取り上げるべきか（文化庁認定の「日本遺産」も確認しておく）。この教師による面的な基礎研究と『守り・受け継ぐ』人々の工夫・努力を具体的に捉えさせその意味を考えるのに最適な文化財・年中行事の選定という事例研究が必須。その上で、生活舞台と距離のある事例に子どもをどのように惹きつけるのかという教材との出会いを工夫することが喫緊の課題。例えば、埼玉県で川越祭を取り上げた場合、校外学習（社会科見学）で祭り会館をコースに組み込む等。

(3) 「我が国の歴史」（6年）

小学校歴史学習で文化遺産を活用する方法は3つある。歴史を探る手がかりとして文化遺産を活用する方法、触れる程度に軽く扱う方法、文化遺産の意味や価値を学ぶ対象として文化遺産を活用する方法の3つである。これら3つのうち1つ目と2つ目は決して新しいものではない。今後、工夫・開発が求められるのは3つ目の文化遺産の意味や価値を学ぶ対象として文化遺産を活用する方法である。

資 料

和文化教育第 14 回全国大会(兵庫県篠山大会)実行委員会

役職名	氏 名	所 属 等
顧 問	梶田 叡一	和文化教育学会 会長
委 員 長	前川 修哉	篠山市教育長
副委員長	中村 哲	和文化教育学会 理事長
委 員	森村 暁子	和文化教育学会 理事
	岡崎 均	和文化教育学会 理事
	今宮 信吾	和文化教育学会 会員
	酒井 宏	篠山市教育委員会 次長
	森田 恭弘	篠山市中学校長会 会長
	塚本 一男	篠山市小学校長会 会長
事務局長	尾松 直樹	篠山市教育委員会 学校教育課長
事務局員	山鳥 有史	篠山市教育委員会 係長
	方山 直人	篠山市教育委員会 指導主事
	高橋 京子	篠山市教育委員会 指導主事
	近成 和泉	篠山市教育委員会 主査

和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会会則

- 第1条 この会は、和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会実行委員会(以下「実行委員会」という)と称する。
- 第2条 実行委員会は、和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会を円滑に実施するとともに、日本の伝統・文化の発展興隆に寄与することを目的とする。
- 第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するための準備、開催、運営などの事業を行う。
- 第4条 実行委員会は、和文化教育学会、関係団体をもって組織する。
- 第5条 実行委員会に次の役職をおく。
- (1) 実行委員長 1名
 - (2) 実行副委員長 1名
- 2 実行委員長は、委員の互選で選任する。
- 3 副委員長は、実行委員長が指名する。
- 第6条 実行委員長は、実行委員会を代表し、会務を統轄する。
- 2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。
- 第7条 実行委員会は顧問をおくことができる。
- 2 顧問は実行委員長が委嘱する。
- 3 顧問は、実行委員長の要請により、実行委員会に出席し、意見を述べることができる。
- 第8条 役員、実行委員、顧問及び事務局員の任期は、第1回実行委員会の日から第19条の規定により実行委員会が解散するまでとする。ただし、特別の理由がある場合は、この限りではない。
- 第9条 会議は実行委員会をもって構成する。
- 第10条 会議は次の各号に掲げる事項について議決する。
- (1) 和文化教育第14回全国大会兵庫県篠山大会の準備、開催、運営に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 会則に関する事項
 - (4) 予算及び決算に関する事項
 - (5) その他の必要な事項
- 第11条 会議は実行委員長が招集する。
- 第12条 会議の議長には実行委員長がこれにあたる。
- 第13条 会議の議事は、出席委員の過半数以上をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第14条 実行委員長が必要と認めるときには、実行委員以外の者が会議に出席することを求めることができる。
- 第15条 実行委員長は、会議を招集する時間がないと認めるときは、その議決すべき事項について、これを専決処分することができる。
- 第16条 実行委員会の事務を処理するため、事務局を兵庫県篠山市北新町4-1、篠山市役所におく。
- 2 事務局は実行委員長の命により事務を処理する。
- 第17条 実行委員会の経費は次に挙げるものをもって充てる。
- (1) 和文化教育学会本部よりの助成金
 - (2) 篠山市負担金
- 第18条 実行委員会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 2 実行委員会の会計に関して必要な事項は、実行委員長が別に定める。
- 第19条 実行委員会は、その目的が達成されたときに解散する。
- 付 則
- 1 この会則は平成29年6月19日より施行する。
 - 2 実行委員会の設立当初の会計年度は、第18条の規定にかかわらず、この会則の施行の日から平成30年3月31日までとする。

和文化教育学会会則

第1章 総則

第1条 本会は、和文化教育学会と称する。

第2条 本会は、我が国の生活文化、地域文化、伝統文化などを含む和文化の振興を図り、文化創造としての和文化教育の普及と発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、当面の間、事務局を関西学院大学教育学部中村哲研究室におく。

第2章 事業

第4条 本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 教育研究会の開催。
- (2) 実演・交流会の開催。
- (3) 講習会の開催。
- (4) 機関誌及び情報誌の発行。
- (5) その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第3章 会員

第5条 会員は、本会の目的に賛同し、本会への入会申し込みを行った者によって組織する。会員は、正会員と賛助会員の2種とする。

第6条 正会員は、本会の事業に参加し、活動できる個人及び団体とする。

第7条 賛助会員は、本会の事業に賛同し、活動を支援できる個人及び団体とする。

第8条 正会員は、別に定める会費を納入しなければならない。

2 賛助会員は、別に定める賛助費を納入しなければならない。

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡したとき、また失踪したとき、又は所属団体が消滅したとき。
- (3) 継続的に3年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

第10条 会員は、退会しようとするときは、その旨を所定の退会届を会長宛に提出して任意に退会することができる。

第4章 組織及び運営

第11条 本会は、事業を運営するために次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 理事長 1名
- (4) 理事 10名以上
- (5) 支部長 支部数以上
- (6) 幹事 5名以上
- (7) 監査 2名
- (8) 顧問 若干名

第12条 役員は、次のようにして決定する。

- (1) 理事、支部長、監査は、正会員のうちより選出し、総会において決める。
- (2) 会長、副会長、理事長は、理事会において推薦し、総会において承認する。
- (3) 幹事は、理事の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。
- (4) 顧問は、理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第13条 役員の仕事は、次のように定める。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故などがあるときは会長職務を代行する。
- (3) 理事長は、本会の運営を総括する。
- (4) 理事は、理事会を組織し、本会の運営について審議する。
- (5) 支部長は、支部会員の協力を得て本会及び各支部の事業を遂行する。
- (6) 幹事は、本会の運営における庶務、企画、会計、広報など仕事を遂行する。
- (7) 監査は、本会の会計を監査する。
- (8) 顧問は、会長の諮問に与る。

第14条 各役員の仕事は2年とする。ただし、再任は妨げない。

第15条 総会は、毎年1回以上開催し、本会の事業及び運営にする重要な事項を審議決定する。

第16条 本会は、理事会の議を経て、領域別及び地区別の支部をおくことができる。なお、支部の活動の規定は、別に定める。

第5章 会計

第17条 本会の経費は、会費、賛助費、参加費、講習費、寄付金などの収入をもってこれにあてる。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 学会誌等編集

第19条 学会誌等の編集発行は、別に定める規定に基づく編集委員会において行う。

第20条 学会誌は、正会員に配布する。なお、別に定める学会誌代を納入する希望者には販売することができる。

附 則

1. 本会則の改正は、総会の決議による。
2. 本会則は、平成17年(2005)年本会発足日から施行する。なお、平成24年11月25日の総会にて一部改正が決議されたことにより、本会則は、平成25年4月1日から施行する。
3. 本会の設立当初の会費、補助費、一括会費は、第9条の規定にかかわらず、次の額とする。

本 会 費 (正 会 員) 個人 3,000 円、団体 10,000 円を一口とし、一口以上。

賛 助 費 (賛 助 会 員) 個人及び団体とも 10,000 円を一口とし、一口以上。

和文化教育学会役員名簿 (平成 29 年度—平成 30 年度)

- (1) 会 長 梶田 叡一
- (2) 副会長 吉田 廣
- (3) 理事長 中村 哲
- (4) 理 事
- | | | | |
|--------|--------------|--------|--------|
| 浅川 潔司 | アレキサンダー・ベネット | 五百住 満 | 伊藤奈保子 |
| 上中 修 | 馬野 範雄 | 越田 佳考 | 岡崎 均 |
| 河野 崇 | 河内 厚郎 | 川島 靖男 | 金 利紀 |
| 齊藤 尚文 | 佐藤 真 | 杉谷 浩 | 田中 隆文 |
| 永木 耕介 | 永添 祥多 | 西村 公孝 | 西村 康幸 |
| 橋本 裕之 | 畑野 裕子 | 藤原 靖浩 | 福本 謹一 |
| 松井 克行 | 峯岸 由治 | 森 一郎 | 森田 雅也 |
| 八木 延佳 | 安野 功 | 山本 宏子 | 余郷 裕次 |
| 渡邊規矩郎 | | | 和田 薫 |
- (5) 支部長
- | | | | |
|------------|--------|---------------|--------|
| 北海道支部 | 橋本 忠和 | 秋 田 支 部 | 金 利紀 |
| 岩 手 支 部 | 大石 泰夫 | 埼 玉 支 部 | 山口 眞吾 |
| 東 京 支 部 | 茅原 芳男 | 岐 阜 支 部 | 中島 永至 |
| 静 岡 支 部 | 大畑 健実 | 石 川 支 部 | 社谷内健太 |
| 愛 知 支 部 | 鈴木 克徳 | 京 都 支 部 | 滝脇 隆一 |
| 大 阪 支 部 | 馬野 範雄 | 和 歌 山 支 部 | 戸川 定昭 |
| 兵 庫 支 部 | 山西 康之 | 鳥 取 支 部 | 加藤 幸平 |
| 広 島 支 部 | 石川 憲之 | 山 口 支 部 | 西川 敏之 |
| 徳 島 支 部 | 余郷 裕次 | 高 知 支 部 | 横山 賢二 |
| 福 岡 支 部 | 永添 祥多 | 佐 賀 支 部 | 松井 克行 |
| 宮 崎 支 部 | 野村 宗嗣 | 鹿 児 島 支 部 | 霧島 一浩 |
- (6) 幹 事
- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|-------|
| 五百住 満 | 上中 修 | 岡崎 均 | 河内 厚郎 | 河野 崇 |
| 得能 弘一 | 西村 康幸 | 藤原 靖浩 | 峯岸 由治 | 森 一郎 |
| 森村 暁子 | 和田 薫 | | | |
- (7) 監 査
- | | |
|-------|--------|
| 關 浩和 | 西裏 慎司 |
|-------|--------|
- (8) 顧 問
- | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|
| 山折 哲雄 (初代会長) | 池坊 保子 | 上原 まり | 大橋 博 |
| 上寺 久雄 | 観世 清和 | 近藤 靖宏 | 高倉 翔 |
| 芳賀日出男 | 端 信行 | バーバラ寺岡 | 三隅 治雄 |

平成27年度版 平成28年度版 小学校 中学校 デジタル教科書



小学校(指導者用)

小学書写
一年～六年

小学社会
5年、6年

小学算数
1年～6年

図画工作
1・2上～5・6下

発売中

中学校(指導者用)

中学社会
地理、歴史、公民

中学数学
1～3

中学美術
1～2・3下

発売中



CoNETS各社共通のデザインと操作性。どの教科でも操作に迷うことなく、円滑な授業が行えます。

主な機能

- オリジナル教材作成エディター ●画像取り込みと外部リンク
- 範囲指定など充実した拡大 ●ふせんによる書き込み、マスク
- 2つの画面を並べて表示 ●アカウントごとの学習記録保存、呼び出し
- 作業状態をそのまま保存できるスナップショット

※表示ソフトウェアは「CoNETSビューア」(株式会社日立製作所製品)を採用しています。

デジタル教科書サポートサイトのご案内

デジタル教科書の商品案内をはじめ、体験版の案内、インストール手順、FAQ、操作方法、活用例、ご採用校様特典など、幅広いサポート内容となっています。最新情報も順次公開していますので、ぜひ日々のご活用にお役立てください。

日文 デジタルサポート

検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

日本文教出版株式会社 お問い合わせは大阪本社業務部までお願い致します。

大阪本社	〒558-0041	大阪市住吉区南住吉 4-7-5	TEL: 06-6692-1261
東京本社	〒165-0026	東京都中野区新井 1-2-16	TEL: 03-3389-4611
九州支社	〒810-0022	福岡市中央区薬院 3-11-14	TEL: 092-531-7696
東海支社	〒461-0004	名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B	TEL: 052-979-7260
北海道出張所	〒001-0909	札幌市北区新琴似 9-12-1-1	TEL: 011-764-1201

Japan

岡山キャンパス



INTERNATIONAL
PACIFIC
UNIVERSITY
環太平洋大学

2つの国で学ぶ 環太平洋大学



IPU
NEW ZEALAND
TERTIARY INSTITUTE

New Zealand

ニュージーランドキャンパス

経営学部

次世代教育学部

体育学部



現代経営学科

こども発達学科

教育経営学科

体育学科

健康科学科

10th
IPUは10周年

4年後に責任を持つ大学



INTERNATIONAL PACIFIC UNIVERSITY

環太平洋大学

IPU



Tel.086-908-0362

〒709-0863 岡山市東区瀬戸町観音寺721



こんな言い方していませんか？

- 私がやらさせていただきます。
- 社長は3時にご出発される予定です。
- 食べれないものはありますか？



日本語検定

普段何気なく使っている日本語ですが、思わぬ勘違いや思い違いも多く見られます。日本語検定では、敬語・文法(言葉のきまり)・語彙・表記・言葉の意味・漢字の6領域において、それぞれの知識と運用能力を測定します。

受検級の目安

- | | |
|------------------|----------------|
| 【1級】 社会人 | 【2級】 社会人・大学生 |
| 【3級】 社会人・大学生・高校生 | 【4級】 高校生・中学生 |
| 【5級】 中学生・小学校 高学年 | 【6級】 小学校 中・高学年 |
| 【7級】 小学校 低・中学年 | |

※1級の受検は、準1級または2級認定が条件となります。



日本語検定委員会 理事長
梶田 叡一

言葉は、私達が生きていく上で一番土台になるものです。言葉の力が十分ないと、きちんと考えることができません。他の人達と気持ちや用事を伝え合うことができません。昔の時代から伝えられてきた大事なことを受け継ぐこともできません。言葉が使えるということこそ、他の動物達と人間とを分ける大きな違いでもあるのです。

言葉は世界中に数多くあります。しかし、日本で生まれ、日本で育ってきた人にとっては、日本語が土台になります。母語としての日本語の力が十分でないまま、いろいろな言葉を学んで会話できるようになったとしても、考える力は不十分なままになります。

日本語は長い年月を掛けて磨き上げられてきた言葉です。どの水準まで日本語の力がついているか、この日本語検定によって総合的に確かめてみてください。もちろん、外国で生まれ育った人が2番目3番目の言葉として日本語を学ぶ場合にも、その本当の上達の程度を、この日本語検定で確かめてみていただきたいと思ひます。

特定非営利活動法人
日本語検定委員会

【特別協賛】読売新聞社 【協賛】時事通信社／東京書籍
【後援】日本商工会議所／日本経団連事業サービス／全国高等学校国語教育研究連合会

お問い合わせ 日本語検定委員会 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 ☎0120-55-2858 FAX.03-5390-7454 ●午前9:30～午後5:00(土・日・祝日を除く)

祝 和文化教育第 14 回全国大会

奈良学園大学は和文化教育の発展に寄与します



奈良学園大学(学長 辻毅一郎)では「教育と日本の伝統文化入門」(必修)、「奈良学」を学ぶとともに、学内にある呈茶室を使った茶道の体験、天平祭への参加など、地の利を生かして実際に日本の伝統文化に触れる機会を数多く設け、専門職(教師、看護職)の育成に役立っています。



【人間教育学部】人間教育学科

小学校教諭を中心に複数免許の取得をめざします。人間力(子どもと向き合う)、実践力(指導力)、教育力(専門性)を高めます。

〈取得可能な免許・資格〉

幼稚園教諭 保育士資格 小学校教諭 中学校・高等学校教諭(国語、数学、音楽) 学校司書教諭 日本語教員資格 * 数学、音楽は教職課程認定申請中。開設時期が変更になる可能性があります。

【保健医療学部】看護学科

21世紀の保健医療を担う全人的ケア(全人的健康観、自然治癒力、患者主体、疾病予防・健康づくりなど多様な医療)のエキスパートを育成。

〈取得可能な免許・資格〉

看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格・養護教諭(2種) 助産師国家試験受験資格



■ 三郷キャンパス 人間教育学部

〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北3丁目12-1 Tel.0745-73-7800 Fax.0745-72-0822

■ 登美ヶ丘キャンパス 保健医療学部

〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1 Tel.0742-95-9800 Fax.0742-95-9850

<http://www.naragaku-u.jp/>



美しい日本人の心を育てる教育の創造

日本教育文化研究所



特集 自己肯定感を高める教育の在り方

自己肯定感を育む意義について ● 新免啓悟	7
自己肯定感をなくむ子供の頃の体験 ● 青木康太郎	11
特集テーマに対する会員の意見 ● 橋本 正・橋本弘一・宮原 修	14
巻頭小論 人を育てる心の教育の大切さ ● 一瀬直良花	22
メンタルケアの現場から・連載24 高貴くん・立ち上がる ● 長田百合子	19
連載① 新しいキャリア教育の在り方① ● 加藤史子	24
21世紀を生きる 教師の仕事を考える Vol.7 「合理的配慮」現場の混乱 ● 長谷川博之	26
教育自論 連載⑤ 教育改革に理念と具体策を ● 野原 明	28
教師人間学 連載⑩ 教師が人間学を学ぶことの意味⑩ ● 小野啓也	30
教育対談 川崎キャプテンに聞く 真のリーダーとして必要な資質・能力とは ● 川崎三郎 × 郡司隆文	45
第34回 全日教連教育研究全国大会(山口大会) 記念講演 ● 高田 明	60



会員配布用

・有識者による連載や特集、会員の寄稿等、幅広い内容の教育雑誌「教育創造」(左)と目次の一部(中央)
・教育問題審議委員会研究部会の研究部員による教育実践が多数掲載されてあるブックレット(右)

日本教育文化研究所 理事長 郡司 隆文

〒102-0083 東京都千代田区麴町3丁目7番地 半蔵門村山ビル(住所が変わりました)

電話: 03-3262-1859 FAX: 03-3264-3829 HPアドレス: <http://www.ntfj.net/kyoubun/index.php>

※ 当研究所では我々の活動に御賛同いただける方に3号会員(個人)、4号会員(団体)で御加入していただくことができます。御希望の方、詳細をお聞きになりたい方はお気軽に御連絡ください。

日本文化関連図書のご案内

価格は税別。

文化を基軸とする社会系教育の構築

中村 哲編著 3800円
グローバル社会における日本人としてのアイデンティティの形成と国際的視野の形成について、文化を基軸とする社会系教育の授業開発や教材化のあり方を論じる。

「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践

安部崇慶・中村哲編著 3800円
我が国における「伝統と文化」に関する教育の先駆的地域を対象に、歴史、理論、比較、実践、心理研究等の総合的方法に基づいて伝統と文化の教育の可能性を探索。

与謝野寛晶子の書簡をめぐる考察

逸見 久美著 3800円
晶子没年までの寛晶子の書簡から2人の生涯を詳細に描く。「天眠文庫蔵与謝野寛晶子書簡集」「与謝野寛晶子書簡集成全四巻」を編んだ著者による書簡研究の最新版。

律令制度と日本古代の婚姻・家族に関する研究

胡 潔著 8000円
律令制によって持ち込まれた中国の父系制の諸原理を古代日本がどのように取捨選択していったのか。記紀などの漢字文献と仮名文学作品とを比較・精読し、その解明を試みた。

嘉納柔道思想の継承と変容

永木 耕介著 16000円
嘉納治五郎によって創られた講道館柔道の思想を再検討し、戦後の国際化とスポーツ化の過程における継承と変容の様相を、多くの資料を基に体系的に明らかにした労作。

まど・みちお 詩と童謡の表現世界

張 晟 喜著 2800円
童謡〈ぞうさん〉の作詞者まど・みちおの創作の軌跡を辿り、104年の生涯を貫いた詩と童謡の表現世界を探究。作品の分析でまどが感じ取った時空間を解き明かす。

日本文化発信力育成の教育

永添 祥多著 2200円
我が国の学校教育における日本文化発信力の育成について、先駆的実践を行っている公立小学校の事例を検討。グローバル化につながる教育について考察した。

データで読む日本文化

一高校生からの文学・社会学・メディア研究入門—
成蹊大学文学部学会編 小林盾・吉田幹生責任編集 2000円
和食、昭和のスター、なでしこジャパン、恋愛などの切り口から、豊富な写真や厳選されたグラフを用いて日本文化の謎を読み解く。グローバル時代の新しい教養。

赤の力学

一色をめぐる人間と自然と社会の構造—
藤井 尚子著 3500円
日本の社会および文化的に浸透する「赤」について、その関係を構成する色材から色の概念を再考。人間と色の関係性から、わが国の社会文化史的思想の構造を解き明かす。

近代日本の〈絵解きの空間〉

一幼年用メディアを介した子どもと母親の国民化—
大橋真由美著 8000円
情報媒体である絵本・絵雑誌、媒介者としての母親、読者である子どもによって構成された受容の場に着目し、近代日本における母子一体の国民化の過程を検証する。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <http://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

伝統文化の源流をたどる

皇室の伝統と 日本文化



所 功 著

四六判・上製・336頁

本体 1,650円+税

歴史学の立場から、皇室の伝統と日本文化をわかりやすく解説した書。歴代天皇の特質、天皇の人生儀礼、皇室の用語、国旗と国歌等について広い視野から説く。

皇室に学ぶ徳育



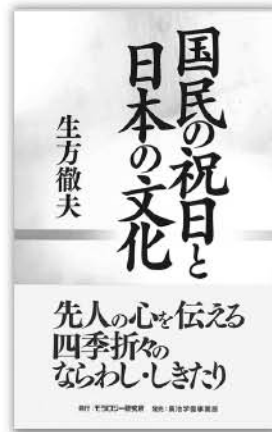
所 功 著

A5判・上製・344頁

本体 1,900円+税

明治天皇は近代化に伴う日本の混迷を憂慮し、「教育勅語」という指針を示された。“人として踏み行うべき道”を求め、実践に努められる皇室のお姿を描き出す。

四季折々の“日本の心”



国民の祝日と 日本の文化

生方徹夫

国民の祝日と
日本の文化

先人の心を伝える
四季折々の
ならわし・しきたり

発行：モラロジー研究所 発行：モラロジー研究所

生方徹夫 著

新書判・127頁

本体
1,000円+税

「国民の祝日」の背景にある先人の思いと、日本の歴史・伝統・文化——。祝日制定の経緯に触れながら、四季折々のならわし・しきたり等、現代に伝わる文化を紹介する。

主な内容

- 春と秋の彼岸——祖先を敬い、しのぶ
- 夏越の祓え——身の不浄をはらい流す
- お月見——占いと豊作祈願
- 冬至と年越し——蘇りへの道標 ほか

“心の力”で未来を拓け!

日本再生と道徳教育

四六判・171頁 本体 1,200円+税

4人のオピニオンリーダーが、誇りある日本人を育てる道徳教育のあり方を提言する。モラロジー研究所の「教育者研究会」50年記念出版。

- 渡部昇一 ● 「肚」をつくる道徳教育
 梶田叡一 ● 真の「生きる力」とは
 岡田幹彦 ● 吉田松陰——「日本人の魂」の教育者
 八木秀次 ● 日本再生の原動力は道徳教育にあり



渡部昇一 岡田幹彦
梶田叡一 八木秀次

“心の力”で未来を拓け!

「国づくり」は「人づくり」から!
誇りある日本人を育てるための
21世紀の道徳教育への提言。

発行：モラロジー研究所
発行：モラロジー研究所

発行 公益財団法人 **モラロジー研究所**

発売：学校法人 **廣池学園事業部**

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL.04-7173-3155 (出版部) FAX.04-7173-3324

<http://www.ecmoralogy.jp/>



芦垣美穂演奏集 ～宮城道雄を謳う～

琴の作曲で知られる宮城道雄の珠玉の作品の内、歌曲を主として録音、CD刊行！

第1集＝水の変態、春の夜、唐砧、初鶯、三絃小曲集（うぐいすの、笛の音、霞立つ、忘るなよ、寝覚め）

第2集＝尾上の松、落葉の踊、比良、春の訪れ、軒の雫、高麗の春

第3集＝吼噓、花紅葉、小鳥の歌、遠砧、虫の武蔵野

第4集＝都踊、瀬音、若水、春の海、秋の草、さしそう光、那須与一、箏小曲集（大井川、花より明るる）

第5集＝秋の庭、夢殿、手事、飛鳥の夢、さらし風手事、中空砧、岩間とぢし、海棠

第6集＝昭和松竹梅、北海民謡調、四季の柳、秋の初風、奈良の四季、ロンドンの夜の雨

好評発売中（BCD-074～BCD-079）各2,800円（税別）

尺ペラーズ仙台

東北大学邦楽部による尺八アンサンブル。

- ①ルパン三世のテーマ ②春よ来い ③Hello, Goodbye ④A Hard Day's Night
⑤あの夏へ ⑥晴れた日に ⑦海に見える街 ⑧夜桜お七

好評発売中（MLCDS-012）1,200円（税込）

(有)バンブー 〒401-0502 山梨県山中湖村平野506 ミュージックイン山中湖 0555-62-3611 <http://zipangu.com>

琴と箏について：弊社では「琴」を推奨しています。「箏」も間違いではないのですが歴史的に見て使用例が少なく、人名、地名などには使われておりません。日本人のほとんどは「琴」と認識しています。

日本の伝統 〈雅楽〉〈能楽〉

雅楽・能楽演奏・学校教材にお奨めします。

画期的な独習用教材

ビデオでおぼえる雅楽〈越殿楽〉

DVD版：5,040円

合奏・龍笛・箏・笙：104分

はじめての雅楽〈CDブック〉

笹本武史 著：2,940円

CD付きで、歴史から演奏まで解説

ビデオでおぼえる森田流能笛入門

DVD版：3,150円

鳳笙・龍笛・箏・能管・小鼓

楽琵琶・太鼓・独習用教材

譜面・CD 他販売



龍笛

小鼓

楽琵琶

笙

■取扱商品：笙・龍笛・箏・琵琶・和琴・能管・小鼓・独習用教材・雅楽譜・書籍・CD・修理・調律・他付属品一式

株式会社 **武蔵野楽器**

〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6
TEL：03(5902)7281 FAX：03(5902)7281
<http://musashino.gagaku.net>
E-Mail：musashino@gagaku.net



茶道雑誌

多彩な情報で表千家流の茶道の広がり、奥深さをお届けします

定期購読をおすすめします

定価 六三七円(本体価格五九〇円)

一年・七、六四四円 半年・三、八二二円

判型 A5



能面 | 美・形・用 |

能面の名称の由来や表情の特徴、工芸美の特色、また演能の実際を多数の写真を使用して語る。著者が生涯をかけて研究した成果。

中村保雄 著

判型 A5 総頁二六二頁 定価 四、六六〇円+税

出版目録をお送りします



株式会社 河原書店 〒604-8132 京都市中京区高倉通三条下ル
TEL 075(221)5637 FAX 075(221)4332 HP <http://www.kawarashoten.jp>

学校鑑賞会・ワークショップ企画と運営
舞楽、能楽、文楽、邦楽、落語他、さまざまな
伝統芸能の実演家たちが、あなたの学校の子ど
もたちに「感動」をお届けします！

「西宮能楽堂」が完成・開館！

能「高砂」に描かれている「鳴尾」の地に、能楽の伝
統的な舞台形式を備えた能楽堂が12月に完成・
開館します。

会館披露公演 新春事始「高砂」謡と舞

日時 平成30年1月7日(日)13:00~15:00
場所 西宮能楽堂(阪神鳴尾駅下車・徒歩5分)
内容 鏡開き・能舞台や扇等解説・囃子楽器と
謡の解説と体験・舞囃子「高砂」上演
出演 シテ 梅若基徳(観世流)ほか
囃子 斎藤敦、上田敦史、守家由訓、上田慎也
定員 先着100名
入場料 3000円(振る舞い酒付・お一人様1杯)
<問合・予約申込先:090-3270-1198>

関西舞台芸術研究所

KANSAI PERFORMING ARTS INSTITUTE

〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-68

FAX: 0798-78-3264 mail: fu-sikaden1275@nifty.com

WACE

和文化教育学会

Association for the Wa Culture Education

入会のご案内

本会は、「我が国の生活文化、地域文化、伝統文化などを含む和文化の振興を図り、文化創造としての和文化教育の普及と発展に寄与すること」を目的とし、次の活動を推進いたします。
ご賛同をいただける方々の入会をお願い申し上げます。

- *和文化自体のすばらしさに触れること
- *和文化教育の実践による児童・生徒のすばらしい成長の事実と直面すること
- *和文化の継承と発展を支える技術・技能を獲得できること
- *和文化教育に関連する研究交流ができること

連絡先 〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山7-54 関西学院大学 教育学部 峯岸 由治
Tel& Fax : 0798-52-4424 E-Mail : minegisi@kwansei.ac.jp
郵便振替口座 口座番号 00930-6-227146
口座名称 和文化教育学会

本会費(正会員) 個人 3,000円、団体 10,000円を一口とし、一口以上。
賛助費(賛助会員) 個人及び団体とも10,000円を一口とし、一口以上。

Home Page <http://wabunka.pro.tok2.com/>

和文化教育第14回全国大会 兵庫県篠山大会要録

発行 平成29(2017)年10月29日

発行者 和文化教育学会
会長 梶田 叡一
和文化教育全国大会第14回
兵庫県篠山大会実行委員会
委員長 前川 修哉

編集者 同 編集担当幹事

印刷所 藤本印刷株式会社
〒669-2437
兵庫県篠山市糯ヶ坪8-1
TEL 079-552-0320

